

## 1. ヒアリング結果

### (1) ヒアリング目的

合併後のまちづくりについて、日ごろ感じていること、耳にしていることをヒアリングすることにより確認し、合併後5年間の成果と、今後のまちづくりの課題の整理を行い、今後のまちづくりに活かすことを目的とする。

### (2) 実施期間

平成22年1月～12月

### (3) 対象者

まちづくりの最前線で活躍する各界各層の方々

- ・地域委員
- ・地域づくり団体
- ・教育・体育関係者
- ・商工関係者
- ・一体感醸成イベント関係者
- ・区長、町内会長
- ・福祉・子育て関係者
- ・農業関係者
- ・市政モニター

### (4) 方法

日常の活動に対する意見交換を行う中で、以下の視点から、合併効果や今後のまちづくりで気がかりなことについて、率直な意見を求めたもの。

### (5) 地域別ヒアリング人数（実績397名）

地域	長岡	中之島	越路	三島	山古志	小国	和島	寺泊	栃尾	与板	川口
人数	39	35	41	49	32	55	31	30	40	28	17

### (6) ヒアリング結果

- ・合併前後で大きな変化はないといった意見が複数あった。
- ・合併で大きな市になったことにより、基盤整備のスピードが速まったことや地域資源を活用した取り組みへの支援が手厚くなったという意見が多かった。
- ・少子高齢化などに伴うこれからの行政サービスが気がかりなものとなっているが、市役所や役場が遠くなるなどの合併前の不安感はほとんどなかった。

○合併効果を感じられたもの

分野	内容
<p>市民協働・自治体経営分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所、支所、市民センターなど、どこでも住民票などが受け取れ便利になった。</li> <li>・まちづくりのワークショップなど市政への参加の機会が増えた。</li> <li>・地域資源を活用したまちづくりが進められている。</li> </ul>
<p>教育・文化分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化、芸術、教育面の講演などに参加する機会が増え、勉強になった。</li> <li>・他地域との交流が子どもたちの視野拡大に繋がっている。</li> <li>・私学助成(私立幼稚園)など子育て支援制度が充実した。</li> </ul>
<p>福祉・健康分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の福祉施設との交流で視野が広がった。</li> <li>・一人暮らしに対する福祉のサービスが良くなっている。</li> <li>・各種団体の自立精神が育ち、自主運営が定着してきた。</li> </ul>
<p>生活・都市基盤分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡南越路スマートインターが予想していたより早期に開通した。</li> <li>・町内要望などの予算への反映が、偏りなく平準化された。</li> <li>・下水道工事が急ピッチで推進されている。</li> </ul>
<p>環境分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの収集体制が良くなった。</li> <li>・環境美化活動への住民の関心が高まってきている。</li> <li>・里山整備事業により、里山の魅力が高まった。</li> </ul>
<p>産業分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特産物の理解が広がり、消費拡大となっている。</li> <li>・特別融資の保証料の助成など、制度融資が充実した。</li> <li>・イベントに他地域からの参加があり、活性化に繋がっている。</li> </ul>

○今後のまちづくりで気がかりなこと

分野	内容
<p>市民協働・ 自治体経営分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民主体で地域性を育てられるよう、身近な窓口として支所を存続してほしい。</li> <li>・地域全体で地域づくりを考え、実践する体制づくりが必要。</li> <li>・地域住民の声を伝える場として、地域委員会は存続してほしい。</li> </ul>
<p>教育・文化分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統や文化活動が続けられるよう支援してほしい。</li> <li>・文化団体の活性化のためには、情報共有と交流・連携が必要である。</li> <li>・団体活動は自立して行いたい、いかに継続するかが課題である。</li> </ul>
<p>福祉・健康分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉利用施設などの整備を一日も早く進めてほしい。</li> <li>・ボランティア活動の参加者を増やしていくことが必要である。</li> <li>・少子高齢化の影響で民生委員の仕事が増加してきていること。</li> </ul>
<p>生活・ 都市基盤分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道未加入者へのPR強化が必要。</li> <li>・これからも地域の足を守ってほしい。</li> <li>・ケーブルテレビは一体感醸成に役立つため、早く広まってほしい。</li> </ul>
<p>環境分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの土地で美しい景色があり、うまく利用できたらよい。</li> <li>・恵まれた自然環境を次世代へ引き継いでいくこと。</li> <li>・地域の環境美化活動が継続してほしい。</li> </ul>
<p>産業分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光協会と連携し、地域観光の総合的な企画が必要である。</li> <li>・今後も、地域の地場産業の育成を継続してほしい。</li> <li>・JAと一緒にさらなる農業の活性化を図ってほしい。</li> </ul>

## (7) ヒアリングでの他意見

### ①住民活動に関すること

- ・他地域との新たな交流が始まり、地域住民の活動の芽が出てきた。
- ・まちづくりのワークショップなど市政への参加の機会が増えた。
- ・まちめぐりや地域コミュニティ事業補助金の活用など、合併したからこそできることを楽しくやらせてもらっている。
- ・和太鼓は「一体感の醸成」の象徴ともいえる活動が展開できてきた。
- ・個人的には合併して良かったと思う。コミセン活動やまつりなど以前より地域活動が活発になった。
- ・合併して他の地域や長岡市全体をよく見られるようになった。全体の視点で自分の地域を見ることが大事である。
- ・合併したことによって、自分たちの地域の良さを見直す機会があった。
- ・地域資源を活用したまちづくりが進められている。
- ・合併の効果はある。今までは行政が主体。合併後は住民主体で企画することが必要。
- ・困ったことはない。他地域との交流も盛んになり、合併の効果は大きい。
- ・自分達が成長しながら各地域との交流が図れ、合併効果は大きい。
- ・もっと市民交流が生まれるよう一体感の醸成が必要である。
- ・コミセン施設の改修が終わると本格的な地域福祉活動に向けて組織やボランティアの育成が急務となる不安がある。
- ・合併後は、広くなったこともあるが、他の地域のことが見えないことがある。
- ・行政協力費はどこの区でも収入の大きな割合を占めており、減額見直しがされれば影響が大きいと思う。
- ・最近では、地域委員会として地域の課題が議論できるようになってきた。
- ・地域委員会は単にまちづくりの議論をするだけでなく、地域活動の実践まで行うようになるべき。そうしないと存在感がない。
- ・地域全体で地域づくりを考え、実践する体制づくりが必要。
- ・住民自治はあったほうが良い。
- ・住民自治の確立のため、これからは益々町内のまとまりが大事である。
- ・地域間交流を活発に進めると活動資金やマンパワーが不足する。
- ・合併の成果を活かしていくためにも、今後も他地域との交流と連携に注力する必要がある。
- ・文化、芸術、教育面の講演会などに参加する機会が増え、勉強になった。
- ・中学校入学前に他の学校の児童との交流が始まり、中学生活に慣れやすくなった。
- ・施設情報の広がりにより、スポーツ施設は地域外からの利用が増加。
- ・子ども野球大会が長岡全体となりレベルが向上。県大会に出場する機会が増えた。
- ・他地域との交流が子どもたちの視野拡大に繋がっている。
- ・私学助成（私立幼稚園）など子育て支援制度が充実した。
- ・長岡市全体となり規模が大きくなったことによって、刺激面でプラスとなって子どもの考えも変わってきた。
- ・地域の体育指導員との交流もあり、他の地域での取り組みがとても参考になっている。

- ・合併してから、栃尾と寺泊の両文化協会を通じて交流が始まった地域の方々と交流を持つことは、非常にプラスになる。
- ・文化団体の活性化のためには、情報共有と交流、連携が必要である。
- ・団体活動は自立して行いたい、いかに継続するかが課題である。
- ・PTA活動など情報交換が増え、良い刺激になった。
- ・今後は、PTAや地域住民の力が試される。学校、地域一体となって理想を模索したい。
- ・地域スポーツ行事等は参加者が減少傾向にあるため、住民ニーズに応じた見直しが必要。
- ・ボランティア活動の参加者を増やしていくことが必要である。
- ・社会福祉協議会としては、他地域との交流が盛んになり良い面が多い。
- ・社会福祉協議会が直接事業等を行ってきたため、住民組織が育っていない。
- ・合併したことにより他の施設との交流ができ、研修会や交流会もあり、井の中の蛙ではなくなり視野が広がった。
- ・老人家庭等の昼食弁当配布（年2回）サービスを行っているが、減額となり区費から持ち出しを行っている。
- ・少子高齢化の影響で民生委員の仕事が増加している。
- ・各種団体の自立精神が育ち、自主運営が定着してきた。
- ・長岡市となったことで情報が得やすくなった。
- ・環境美化活動への住民の関心が高まってきている。
- ・地域の環境美化活動が継続して行ってほしい。
- ・里山整備事業により、里山の魅力が高まった。
- ・恵まれた自然環境を次世代へ引き継いで行ってほしい。
- ・合併地域の衰退が懸念。交通弱者にとっては中心部に出向くのは不便。何でも中心に揃えられてしまうと困る。
- ・寺泊地域との交流など、お互いの刺激になっており、どちらの入場者数も増えている。
- ・合併のメリットは海のある寺泊地域と一緒にになったこと。寺泊観光客を他地域に誘致すべき。
- ・イベント等に参加する回数が非常に多くなり売り上げも上がり儲かった。合併してよかった。
- ・イベント参加が増え、売り上げが増加。道の駅の集客が増加した。
- ・イベントに他地域から参加があり、活性化に繋がっている。
- ・地域特産物の理解が広がり、消費拡大となっている。
- ・地域に若い人が少なくなり将来に不安はある。
- ・商工会に所属している。合併後、いろいろな地域との交流もあり、とても充実している。
- ・長岡地域商工会の連合として、行政への対応力が出てきた。
- ・商工会という立場からいうと、転出者、廃業者などが多く会員の減少は止まらない状況で将来展望は決して明るくない。
- ・観光面は行政と商工会の連携で積極的に機能し、住民参加の地域づくりの進行を望む。
- ・観光協会同士の交流が始まり、和・輪が広がった。情報発信がしやすくなった。
- ・新市内にはいろいろな観光地があり、特産品もあり、景色もそれぞれの土地の美しさがあり、この持っているものをうまく利用できないかと思う。
- ・これまでイベント等は行政主体で進められてきた。市民主体の観光協会もでき、これからの自主的な活動に期待する。

- ・観光協会との協力による地域観光に関する総合的な企画や立案が必要となってきた。
- ・中山間地域では高齢化が進み、耕作放棄地が多くなり、地域間交流どころではない。
- ・農業委員が少なく、活動するための補助員が必要である。
- ・合併の区割りとJAの区割りが違うので戸惑いはある。

## ②行政に関すること

- ・市役所、支所、市民センターなど、どこでも住民票などが受け取れ便利になった。
- ・自分たちの地元の良さを再認識できた。看板整備もされ、外から来た人に対して案内できる方が増えた。
- ・支所の対応は迅速で良くなった。
- ・支所機能もうまくいっている方だと思う。住民の視野の広がってきたこと。
- ・支所は存続充実が望ましい。それは、支所が市民と最も近い存在であるためである。
- ・住民主体で地域性を育てられるよう、身近な窓口として支所を存続してほしい。
- ・今後、職員が減らされ住民へのサービスが低下するようでは困る。
- ・地元（現地）を知る職員が少なくなり、今後はその対応に時間を要することを心配している。
- ・行政も市民協働の方向に導くために情報を十分に伝え、また実例を開示することが大事である。
- ・地域固有業務は、時代にあわせて見直しが必要である。
- ・地域固有業務分の報償金が無くなると、越路地域の特色である区長制度が機能しなくなる。
- ・住民の声が中央に届かないことを心配している。
- ・行政サービスには、周辺部や合併市町村への配慮をして欲しい。
- ・地域性はもっと育てていく方向であってほしい。
- ・各地のPRに期待している。振興策の情報などはもっと周知してほしい。
- ・町内会長の立場からすると、合併して以前よりいろいろな要望事項等に対して、行政の対応が遅くなった。
- ・本庁支所の意思決定に時間が掛かる。また、支所権限が少ない為、行政対応やサービスに低下を感じる時がある。小さな維持補修や修繕くらいなんとかならないのか。
- ・支所→本庁がスムーズでない。縦割りの弊害がある。横断的な相談が支所でもできない。
- ・支所は将来にわたって必要である。支所の決裁権がもっと必要である。
- ・入札の総合評価でもっと地域要件のポイントを挙げてほしい。
- ・これから先の不安を言われる方が多数。地域特有のもので継続するのは当たり前。合併とは平均にすることではないと思う。
- ・市民活動団体助成制度や、地域コミュニティ事業補助金などは、一般の人には敷居が高いのではないかと感じる。
- ・各地域で市有施設の使用料等の制度の調整を早くすべきである。
- ・イベントなどを開催するにおいて、広報活動は非常に重要である。もっと地域の広報に力を入れてほしい。
- ・住民と行政の信頼関係が、今後も続くことを期待している。市は地域の声を今後も大切にしていって欲しい。

- ・地域の伝統や文化活動が続けられるよう支援してほしい。
- ・文化協会を支えてくれる支所の体制が年々弱まってきているように感じる。
- ・長岡市当局のご支援を頂き、大変素敵な校歌ができた。一生の記念になる宝ができたと喜んでいる。
- ・学校の改装は、合併しなければ絶対にできなかったことと思うのでうれしい。
- ・温泉利用施設などの整備を一日も早く進めてほしい。
- ・自転車通学生徒の冬期間の通学を考慮する必要がある。
- ・一人暮らしに対する福祉のサービスが良くなっている。
- ・高齢者の足の確保は問題。コミュニティバスの検討を期待する。
- ・これからも地域の足を守ってほしい。
- ・診療所は維持してほしい。
- ・かかりつけの診療所があることはありがたいこと。これからも守ってほしい。
- ・障がい者が、作業所でできる仕事の支援をお願いしたい。
- ・高齢化が進んで将来が不安。自宅でひとりでも生活できる環境づくりを整えてほしい。
- ・下水道工事が急ピッチで推進されている。合併後の財政規模だから可能。
- ・下水道整備が順調に進んでいる。
- ・下水道料金など、住民から統一してほしいという声を多く聞く。できるだけ早く統一してほしい。
- ・水道料、下水道料金が非常に高いことを知り、一日も早く料金値下げをしてくれという声にわかに大きくなってきた。
- ・下水道未加入者へのPRが、不足しているように思う。
- ・長岡南越路スマートインターが予想していたより早期に開通した。
- ・町内要望などの予算への反映が、偏りなく平準化された。
- ・予算の都合や優先順位はあると思うが、各種団体や地域要望などできる限り配慮してほしい。
- ・道路補修などは、その都度窓口に相談しており対応は十分。
- ・除雪はしっかり対応してほしい。
- ・除雪が最大の心配事であった。しかし、合併しても除雪対応は変わらず、おそらく住民の8割以上は安心している。
- ・除雪は山古志住民の生命線。サービス低下するだろうと予測していたが、合併後も変わらない。安心している。
- ・生活の中で変わったところはない。生活に不便はない。除雪も上手にしてあるので問題はない。
- ・ケーブルテレビは一体感の醸成に大いに役立つので早く広まって欲しい。
- ・建設（道路）、産業関係で地域の要望の受け入れ達成が悪く、財政面で本庁への強い要請を願いたい。
- ・ゴミの収集体制が良くなった。
- ・各施設の管理において、壊れたものがそのままになっている。特に屋外施設に多く見られる。
- ・長岡地域の賑わいを利用したいが遠い、交通が不便。コミュニティバスの検討を期待したい。
- ・中山間地では、高齢化が進み耕作放棄地が多くなっている。
- ・概ね満足しているが、農業にもうちょっと目を向けてほしい。

- ・市内全体で比較すると、農業行政の指導内容に片寄りがあるように思う。
- ・特別融資の保証料に市の助成があるなど制度融資が充実していること。
- ・JAと一緒にさらなる農業の活性化を図ってほしい。
- ・今後も、地域の地場産業の育成を継続してほしい。
- ・地域差があることを十分認識してもらいたい。
- ・寺泊観光を活用し、活性化して欲しい。

### ③その他

- ・合併直後は、越路だったら良かったという思いがあった。今は、100人より1,000人で力を合わせた方がいいのではと思う。
- ・合併前後で大きな変化はあまりない。
- ・合併して困ったことは別にない。
- ・合併は時間が経たないとその効果はわからないし、効果も出ない。検証には時間がある。トータルの視点必要。
- ・合併して非常に良くなった。合併反対の言葉も聴かれなくなった。
- ・合併して5年が経過するが、生活実感は合併前と変化はない。
- ・合併したことによる変化は感じられない。
- ・自分も含め、今でも住民は意識の中で「吸収合併」という意識が残っている。
- ・合併した地域の様々な条件格差があるので、良くなったとはいえない。
- ・ますます少子高齢化が進み、中心市街地も周辺農村部もどんどん人口が減少し、地域の荒廃が進むことが懸念される。
- ・合併前と違い、業界の団体として直接市の上層部(三役)等と懇談する機会がない。